

第 33 期 第 1 四半期報告書

(2026 年 7 月 1 日から 9 月 30 日まで)



2026 年 10 月 30 日

株式会社 旅籠屋

会社名 (定款上の商号)

株式会社 旅籠屋

英文名 (英文商号)

Hatagoya & Company

代表者の役職氏名

代表取締役 亀井 明

本店の所在地

東京都台東区寿 3 丁目 3 番 4 号

電話番号

03-3847-8858

連絡先

総務部長 小貫 省吾

I 当期の業績

(1) 損益計算書

(単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

期別	前年度	前年度	前年度	前年度	当年度	当年度	前年同期	前年度
	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期	第 1 四半期	累計	比	累計
	2025.7.1～ 2025.9.30	2025.10.1～ 2025.12.31	2026.1.1～ 2026.3.31	2026.4.1～ 2026.6.30	2026.7.1～ 2026.9.30	2026.7.1～ 2026.9.30		2025.7.1～ 2025.9.30
I 営業収益 売上高	772,603	668,329	506,363	564,502	757,516	757,516	▲2.0%	772,603
II 営業費用 売上原価	516,389	518,716	507,828	516,022	550,716	550,716	+6.6%	516,389
販売費及び一般管理費	81,643	81,746	72,023	75,317	80,391	80,391	▲1.5%	81,643
営業利益または営業損失(▲)	174,569	67,866	▲73,488	▲26,837	126,408	126,408	▲27.6%	174,569
III 営業外収益	768	304	974	200	1,664	1,664	+116.7%	768
IV 営業外費用	7,759	7,651	7,852	7,174	7,151	7,151	▲7.8%	7,759
経常利益または経常損失(▲)	167,578	60,519	▲80,365	▲33,811	120,921	120,921	▲27.8%	167,578
V 特別利益	—	—	—	—	—	—	—	—
VI 特別損失	18,500	2,833	—	—	—	—	—	18,500
税引前四半期(当期)純利益または純損失	149,078	57,685	▲80,365	▲33,811	120,921	120,921	▲18.9%	149,078
法人税、住民税	4,231	4,231	4,231	4,215	4,227	4,227	▲0.1%	4,231
法人税等還付額	—	—	—	—	—	—	—	—
法人税等調整額	—	—	—	17,546	—	—	—	—
四半期(当期)純利益または純損失	144,846	53,453	▲84,597	▲55,573	116,693	116,693	▲19.4%	144,846
期中平均株式数	5,589	5,589	5,589	5,589	5,589	5,589	—	5,589
1株当たり四半期(当期)純利益または純損失(▲)	25,916円	9,564円	▲15,136円	▲9,943円	20,880円	20,880円	▲5,036円	25,916円
※ 客室稼働率	58.9%	59.9%	49.0%	56.6%	56.7%	56.7%	▲2.2p	58.9%

- ・潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- ・特別損失は、退任役員に対する退職慰労金と裁判関連の支払いによるものです。

(2) 貸借対照表

(単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

			前年度 第 1 四半期末 2025.9.30	前年度 第 2 四半期末 2025.12.31	前年度 第 3 四半期 2026.3.31	前年度 第 4 四半期 2026.6.30	当年度 第 1 四半期 2026.9.30
科目							
資産の部	Ⅰ 流動資産	現金預金	915,721	921,506	707,599	504,737	471,819
		その他	263,272	290,462	300,886	220,727	299,166
	流動資産合計		1,178,993	1,211,969	1,008,485	725,464	770,985
	Ⅱ 固定資産	有形固定資産	771,859	752,457	818,212	879,552	960,265
		無形固定資産	13,803	12,928	12,053	11,178	10,303
		投資その他の資産	240,976	239,580	270,552	269,416	267,306
	固定資産合計		1,026,640	1,004,966	1,100,819	1,160,148	1,237,875
資産合計		2,205,633	2,216,936	2,109,305	1,885,613	2,008,860	
負債の部	Ⅰ 流動負債		250,953	209,436	186,430	168,344	174,332
	Ⅱ 固定負債	長期借入金	1,740,829	1,739,829	1,739,829	1,589,829	1,589,829
		他の固定負債	26,800	27,200	27,460	27,200	27,992
	負債合計		2,018,911	1,976,759	1,953,719	1,785,600	1,792,153
純資産の部	Ⅰ 株主資本	資本金	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
		資本剰余金 資本準備金	68,916	68,916	68,916	68,916	68,916
		その他資本剰余金	41,710	41,710	41,710	41,710	41,710
		利益剰余金 繰越利益剰余金	32,894	86,348	1,756	▲53,815	62,878
		自己株式	▲56,798	▲56,798	▲56,798	▲56,798	▲56,798
		株主資本合計	186,722	240,176	155,585	100,013	216,706
	純資産合計		186,722	240,176	155,585	100,013	216,706
負債・純資産合計		2,205,633	2,216,936	2,109,305	1,885,613	2,008,860	
	発行済株式総数	5,589 株	5,589 株	5,589 株	5,589 株	5,589 株	
	1 株当たり純資産	33,409 円	42,973 円	27,838 円	17,895 円	38,773 円	

- ・長期借入金のうち、商工組合中央金庫からの300,000千円、日本政策投資銀行からの300,000千円は、それぞれ資本性借入金であり、金融検査上資本とみなされるものです。なお、日本政策金融公庫からの150,000千円の借入金は、約定により4月に全額返済しました。

(3) 株主資本等変動計算書 (2026年7月1日～9月30日、単位：千円、千円未満は切り捨てて表示)

項目	株主資本						純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	
		資本準備金	その他 資本剰余金	その他利益剰余金			
				繰越利益剰余金			
当期首残高	100,000	68,916	41,710	▲53,815	▲56,798	100,013	100,013
第 1 四半期中の変動額 四半期純利				116,693		116,693	116,693
第 1 四半期中の変動額の合計				116,693		116,693	116,693
2026 年 9 月 30 日残高	100,000	68,916	41,710	62,878	▲56,798	216,706	216,706

(4) 貸借対照表および損益計算書の作成の基本となる事項

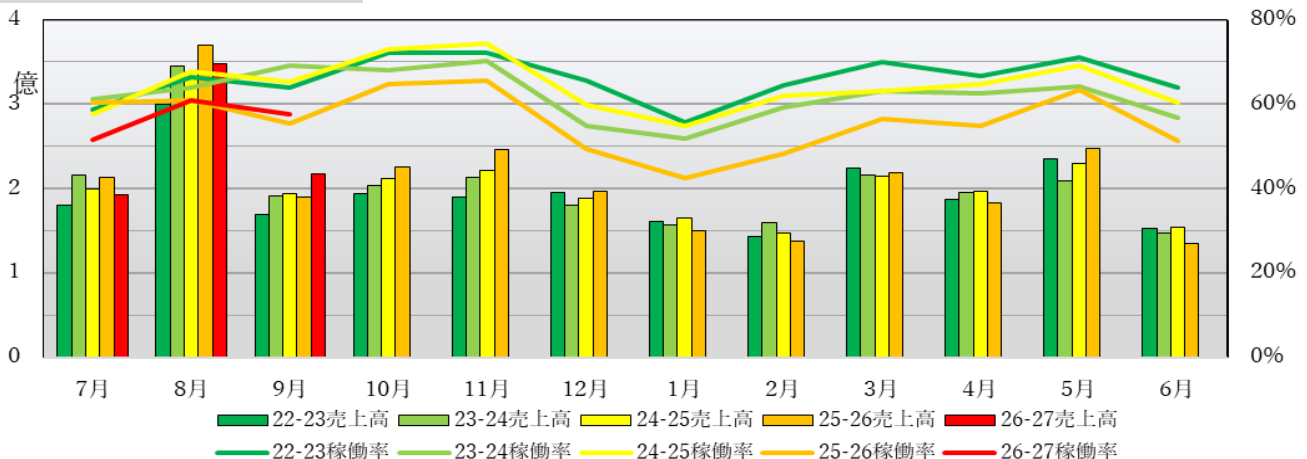
四半期の貸借対照表および損益計算書の作成の基礎としている会計処理の原則および手続は、下記事項を除き正規の決算において採用している基準と同一のものを適用しております。正規の決算において採用している重要な会計方針等は「第32期事業報告書 注記表 I. 重要な会計方針に係る事項に関する注記」をご参照ください。

なお、事業年度の貸借対照表および損益計算書の作成のために採用している会計処理の原則および手続と異なる会計処理の基準は次のとおりです。

- 固定資産の減価償却の方法 各四半期の減価償却費は年間償却見積額の4分の1相当額を計上しています。
- 経過勘定項目 未収収益、未払費用等の経過勘定項目のうち、重要性の低い項目は、資産および負債に計上せず期間収益または期間費用として処理しています。
- 消費税等の会計処理 仮払消費税等および仮受消費税等は、相殺のうえ、差額を流動資産または流動負債として計上しています。

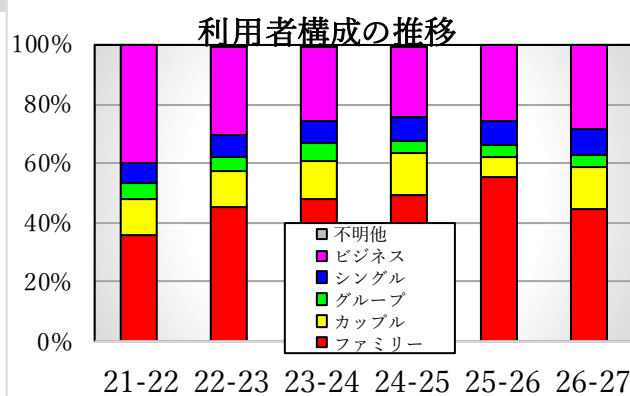
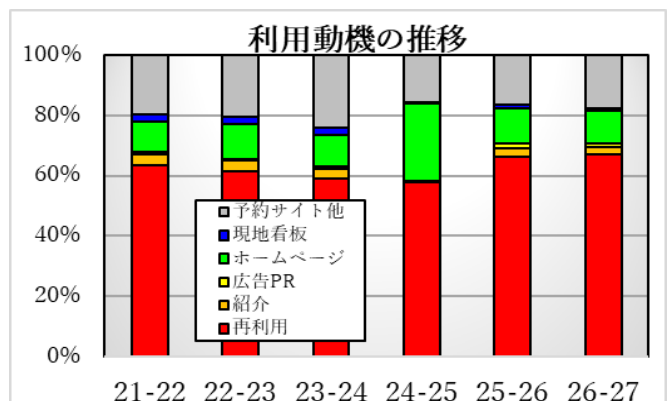
II 第33期 (2026年7月1日～9月30日) の業績の概況

(1) 月次の業績推移



昨年8月からの料金値上げの影響で、客室稼働率が前年同月を下回る状況が続き、今年1月以降は売上高も下回る月が増えていましたが、客室稼働率については今年8月は前年同月に戻り、9月は2.3ポイント上回りました。10月以降も回復基調が続く見通しです。

(2) 顧客属性の推移 (7月1日～9月30日)



利用者構成は、ファミリー（55.1→44.3%）の大幅減少、カップル（6.8→14.7%）の倍増、ビジネス（25.7→28.2%）の増加が目立ち、前年同期に比べ、大きく変動しました。11月からの料金改定による変化に注目したいと考えています。

利用動機は、再利用の増加とホームページの減少が続いています。新規客の増加とホームページ集客の強化が課題です。

Ⅲ 第 33 期の売上高および利益の予測について（単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております）

科目\期別	第 29 期 通期実績 2022.7.1～2023.6.30	第 30 期 通期実績 2023.7.1～2024.6.30	第 31 期 通期実績 2024.7.1～2025.6.30	第 32 期 通期実績 2025.7.1～2026.6.30	第 33 期 通期予想 2026.7.1～2027.6.30
売上高	2,330,659	2,431,760	2,455,156	2,511,798	2,600,000
経常損益	169,268	216,090	178,111	113,928	120,000
当期純損益	200,088	203,997	134,592	58,137	80,000

前期は客室稼働率の低下が続き、売上高は微増となったものの経費増により経常利益は 1/3 以上減少しました。加えて法人税等調整額が大きくマイナスに転じたため、最終損益は半減以下となり、繰越利益剰余金のマイナスも半減にとどまりプラスには届きませんでした。当期は、いずれも微増となる見通しです。

Ⅳ 資金および借入金の状況

（１） 現金および預金の増減（単位：千円、千円未満は切り捨て）

科目\期	第 32 期第 1 四半期 2025 7.1～9.30	第 32 期第 2 四半期 2025 10.1～12.31	第 32 期第 3 四半期 2026 1.1～3.31	第 32 期第 4 四半期 2026.4.1～6.30	第 33 期第 1 四半期 2026.7.1～9.30
現金および預金の増減額	+185,102	+5,785	▲213,907	▲202,862	▲32,918
現金および預金の四半期首残高	730,619	915,721	921,506	707,599	504,737
現金および預金の四半期末残高	915,721	921,506	707,599	504,737	471,819

（２） 短期借入金の増減（単位：千円、千円未満は切り捨て）

科目\期	第 32 期第 1 四半期 2025 7.1～9.30	第 32 期第 2 四半期 2025 10.1～12.31	第 32 期第 3 四半期 2026 1.1～3.31	第 32 期第 4 四半期 2026.4.1～6.30	第 33 期第 1 四半期 2026.7.1～9.30
短期借入金の増減額	+22,000	+1,000	▲23,000	－	－
短期借入金の四半期首残高	0	22,000	23,000	0	0
短期借入金の四半期末残高	22,000	23,000	0	0	0

（３） 長期借入金の増減（単位：千円、千円未満は切り捨て）

科目\期	第 32 期第 1 四半期 2025 7.1～9.30	第 32 期第 2 四半期 2025 10.1～12.31	第 32 期第 3 四半期 2026 1.1～3.31	第 32 期第 4 四半期 2026.4.1～6.30	第 33 期第 1 四半期 2026.7.1～9.30
長期借入金の増減額	▲22,000	▲1,000	－	▲150,000	－
長期借入金の四半期首残高	1,762,829	1,740,829	1,739,829	1,739,829	1,589,829
長期借入金の四半期末残高	1,740,829	1,739,829	1,739,829	1,589,829	1,589,829

（４） 投資その他の資産の内訳 第 33 期第 1 四半期末（2026 年 9 月 30 日）時点（千円未満は切り捨てて表示）

170,268 千円	… 借上直営店における差入れ保証金（契約満了時返済）
92,240 千円	… 「水戸大洗店」「仙台亘理店」「小淵沢店」「東京新木場店」改修工事建設協力金
1,210 千円	… 取引信用金庫などへの出資金
1,940 千円	… 信用保証協会への信用保証料など
1,611 千円	… 繰延税金資産
34 千円	… リサイクル預託金
合計 267,306 千円	

Ⅴ 今後の事業展開について

「那須店」は、7 月 17 日にオープンしました

2 月に着工し、7 月上旬に竣工。オープン準備も終わり、7 月 17 日、約 3 年ぶりに営業を再開しました。

新契約店舗で改修工事が進んでいます

契約期間が満了した初期の店舗で順次新契約の交渉を進め、これにともなって改修工事を行い、誰でもトイレ、非常用発電機、EV 用普通充電設備なども新設しています。「仙台亘理店」「小淵沢店」「前橋南店」「東京新木場店」「九十九里店」では完了し 11 月より「山中湖店」の工事を予定しています。

2027 年 2 月より、シーズン区分を変更します

昨年 8 月の料金値上げ以降、客室稼働率の低下が目立っているため、5 月より過半の店舗において「オフシーズン料金」を設けましたが、2027 年 2 月より、これを「ライトシーズン」として常設化し、料金差の開きが大きかった「レギュラーシーズン」と「ハイシーズン」の間に「ミドルシーズン」を新設します。これによって、お客様のニーズに合わせたきめ細かい対応が可能になり、客室稼働率の上昇を図りたいと考えています。なお、ご予約は 90 日前からですので、11 月初めから新しいシーズン区分で受け付けることになります。

認知度アップを図っています

新規客の減少が目立つため、7 月に 2 輪雑誌「Clubman」へ広告を掲載しました。また、ホームページへのアクセスを増やすため、3 月よりホームページ内に「旅籠屋がお勧めする旅の特集ページ」を新設するとともに、MEO 対策に取り組んでいるところです。

以上